

# History

キラリを再発見

## 農道拡幅工事中に

## 発見された横穴

小堤谷東横穴は、昭和44年に現在の市道玄保宮木ケ谷線の拡幅工事が行われた際に1基の横穴が発見され、郷土史研究家の小野芳郎氏により緊急の発掘調査が実施されました。

規模については記録がありませんが、小野芳郎氏が執筆した「浜岡五カ町村史」に「玄室の構造が家形につくられ、天井には棟木型の掘り出しがあり、床は二段になって一段高い奥の区画に遺体を葬ったものである。そこには、敷石が並べられていたが中央部に乱れがあり、床面に手を加えられた跡が見られることから追葬が行われたものと考えられる」と記されています。

出土遺物は、奈良時代(8世紀)前半の須恵器の長頸瓶1点と高台付坏身4点、内外朱塗りの土器器盤1点、13世紀頃の山茶碗が教育委員会に保存されています。これらの出土遺物から奈良時代(8世紀)前半に造られた横穴と考えられ、鎌倉時代頃に何らかの理由で再利用されたと考えられます。

照会 社会教育課 ☎0548⑥1129



▲小堤谷東横穴調査風景

▲小堤谷東横穴副葬品出土状況

市内比木地区



埋蔵文化財包蔵地  
小堤谷東横穴

# Atomic

暮らしと原子力

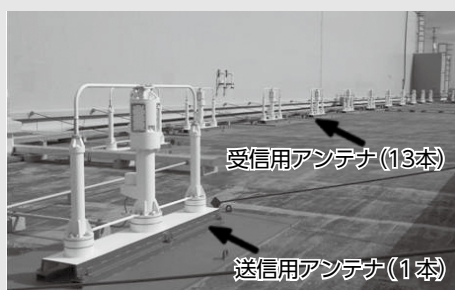
津波を監視するための

H F レーダー試運転開始

中部電力は、初動体制や復旧作業に役立てるため、津波を早期に精度よく検知する津波監視技術の研究を行っており、この研究の一環としてレーダーによる発電所前面海域の流速観測に向けた取り組みを実施しています。

このレーダーによる観測は、これまで沖合20kmの範囲まで観測可能なVHF(※1)帯電波を用いて行っていました。沖合20km以上の範囲についても観測が可能なHF(※2)帯電波を用いたレーダーの試運転を11月17日より開始しました。

中部電力では、このレーダーによる観測以外にも「GPS波浪計」「DONET(※3)」「高感度カメラ」を用いて、観測データをリアルタイムに表示する津波監視システムの研究開発を進めていることです。



▲HFレーダーの設置状況(5号機建屋屋上)

※1 周波数が30〜300MHzの電波。  
※2 周波数が3〜30MHzの電波。  
※3 海洋研究開発機構が運用管理する地震・津波観測監視システムの一つで、三重県尾鷲沖合の地震動・潮位を観測します。中部電力が研究開発している津波監視システムでは、津波の到達時刻・高さを予測するために活用します。